



出雲崎レトロミュージアム

中野 賢一

NAKANO KENICHI

1970年 鹿児島県出身

2023年 12月

「出雲崎レトロミュージアム」を開館

昨年12月、国道116号線沿いの出雲崎町大門に「出雲崎レトロミュージアム」がオープンした。ブリキと機械仕掛けのおもちゃ館とあるように、館内は当時の子どもたちが夢中になった1950年～80年代のテレビや映画のキャラクターのソフビ、ブリキのおもちゃ、遊園地が小さくなったようなブリキの箱庭玩具など、貴重なおもちゃ数千点が展示されている県内最大級のレトロなおもちゃ博物館だ。

館長の中野賢一さんは鹿児島県出身。妻の実家がある柏崎市へ昨年4月に移住したばかり。中野さんは2018年から岐阜県高山市で「飛騨高山レトロミュージアム」を経営していたという。ミュージアムは昭和の時代にタイムスリップしたかのようなレトロな町並みを再現。1万点の展示品、駄菓子屋やレトロゲーム、小学校の教室で給食が味わえるといった体験型の昭和館の他、レトロ雑貨専門店、昭和居酒屋など、経営していたすべての店舗とコレクションをそのまま後任の会社へ譲り、今年3月まではアドバイザーとして経営や営業指導を依頼されているそうだ。

最初に収集を始めたのはアップルのPC、Macintosh（マッキントッシュ）だっ

たという中野さんは大手家電量販店で長く勤務していた経験がある。パソコンブーム始まりの折りに、パソコンサポート事業や中古パソコン事業のシステムを立ち上げるという先駆的な仕事を任されていた。忙しい仕事の傍らMacの収集をするうちに昭和関連の収集家たちとの交流が始まり、廃業する玩具店のおもちゃを買い取るなど、コレクションが増えたことも事業を始めるきっかけになったと振り返る。

柏崎へ移住した3か月後に株式会社トイズを発足。これまで個人で所有していたコレクションを基に新しいミュージアムの構想を模索した。参考にしたのは「開運！なんでも鑑定団」でお馴染みの北原照久さんが経営するミュージアム。横浜の「ブリキのおもちゃ博物館」等を参考に、アクリル製の展示ケースやおもちゃの1点1点がよく見える工夫をして、これまで手掛けたものとは違うレトロミュージアムを目指した。展示されたおもちゃは定期的に入れ替えを行い、子どもの目線に合わせて低い位置にレトロゲームを設置。「子どもたちが楽しそうに遊んでいる様子を見ているだけでうれしくなる。それが自分のやりがい」と話す。ミュージアムの前には焼き芋の自動販売機、館内には駄菓子コーナーも置かれ、今後は中古おもちゃの販売買い取りも行うという。ミュージアムはオープンしたばかり、これからも変化を続けながら子どもたちが楽しめる場所にしていきたいと笑顔を見せた。



お問い合わせ

出雲崎レトロミュージアム
ブリキと機械仕掛けのおもちゃ館

出雲崎町大門869-5

開 館：10時～16時 休：水曜・元旦

入館料：大人600円・子供400円（中学生以下）

*駄菓子屋コーナー、レトロ雑貨コーナーは入館無料



WEB